



社会福祉協議会 だより

心配ごと、悩みごと
ご相談はご遠慮なくどうぞ
☎️ 町内 35-1270

令和3年度 苓北町社会福祉協議会の 嘱託職員を募集します

▶ 募集区分、募集人数など

区分	保育士	看護師	生活支援コーディネーター
募集人数	1人	1人	1人
受験資格	○昭和33年4月2日～平成11年4月1日までに生まれた人 ○保育士の資格がある人 ○普通自動車運転免許	○昭和33年4月2日～平成11年4月1日までに生まれた人 ○看護師または、准看護師の資格がある人 ○普通自動車運転免許	○昭和33年4月2日～平成11年4月1日までに生まれた人 ○普通自動車運転免許
職務内容	子育て支援センターにて子育て相談・サポート業務	地域包括支援センターにて訪問看護師業務	地域包括支援センターにて福祉に関する地域資源開発及び連携体制づくり
任期	令和3年4月1日～令和4年3月31日の1年間 ※更新あり		
勤務形態	平日の8時30分～17時、月15日程度 ※報酬は月額14万円程度		
備考	賞与(年2回)、交通費の一部を支給、社会保険などの加入、有給休暇(半年勤務後)		

▶ 応募受付期間

1月22日(金)～2月10日(水)
※受付は平日の8時30分～17時までです。

▶ 応募書類

申込書、履歴書、資格免許証(写)
※申込書は苓北町社会福祉協議会にあります。
※書類は苓北町社会福祉協議会事務局に提出ください。
※郵送の場合は2月10日(水)までの消印有効です。

第70回社会を明るくする 運動作文コンテスト

吉村美音さんが 優秀賞を受賞



第70回社会を明るくする運動作文コンテストで、志岐小学校の吉村美音さんが熊本県更生保護女性連盟会長表彰の優秀賞を受賞されました。



本作文コンテストは今回で28回目を数え、町内小中学校からの受賞は今回が初めてです。昨年12月14日、志岐小学校において、苓北町地区推進委員長で苓北町社会福祉協議会の山崎敬一会長より表彰状の伝達が行われました。

▶ 試験日

日時 / 2月19日(金) 9時～(受付: 8時45分～)
内容 / 面接
※合格者には後日連絡を行います。

【応募先・問い合わせ】

苓北町社会福祉協議会事務局(保健センター内)
〒863-2503 苓北町志岐660番地
☎️ 35-1270
ホームページ: <https://reihokushakyo.com>



<以下、文江さんの話された内容に掲載しています>

久玉村(現:天草市久玉町)で、西村家8人兄妹の四女として生まれました。農家で育ちましたが、当時は家が大地主で夫さんを頼んで仕事をしていましたので、子供は家の手伝いをすることはありませんでした。

久玉小6年の時、友達が台湾から帰ってきて、海で水遊びをよくしていたのを覚えています。久玉中・牛深高等学校の県立一期生(それ以前は牛深女学校であった)として入学・卒業をしました。現在は久玉湾を埋めて立派な校舎が建っていますが、昔は高校の運動場が整備されておらず、運動会の時は小学校のグラウンドを借りて行われていました。

昭和28年の高校卒業後しばらくして、漁業合同事務所(漁業が盛んな時に7名の網元が築いた会社)に徒歩通いで勤めて事務員をしていました。

数年間勤めてしばらくした頃、友達の紹介で主人となる弘幸さんと出会い、南風の風に流されて富岡にたどり着きました(笑)(昭和36年結婚)結婚するまでは食事を作ったことも無く、生まれて初めて実家を離れて暮らしていた文江さんは、夕日が海に沈むのを見て涙を流すこともありました。

子供が3人と孫5人にも恵まれ、子育てに追われる中で仕事探しをしていましたが、保育園通いの末っ子が「家に帰った時に誰もいない(お帰りなさいの声がない)のは寂しい」と言った事で仕事に出るのは諦め、趣味を活かし資格を取って編み物教室を開いていました。弘幸さんは、水産高校(現:天草拓心高校)に勤務していて、文江さんは子育てをしながら学校から頼まれて生徒の下宿の面倒を見たりしていました。

月日が流れて50歳を過ぎた頃からは、文江さんの気持ちを一番に理解してくれていた弘幸さんに感謝しながら、ボランティア・ヘルパー・食改活動や町の健康指導員・民生委員等を務め、地域貢献並びにそこで得た苓北町の知識が文江さんの財産となりました。

弘幸さんの定年及び区長退任後は、一緒に色々な所に旅行をして楽しんでいましたが、弘幸さんは77歳の時に不慮の事故に遭い、現在は病院生活をされています。コロナの影響で、弘幸さんと面会ができないことが文江さんは悲しいと話されましたが、1人の時間の多くを趣味にあてることで、今の生活を楽しんでおられます。そして、一日でも早く新型コロナが終息して平和な日常生活が出来る事を願われています。

苓北町で、元気に生き生きと暮らしていってらっしゃる『たっしゃかもん』をご紹介します。

輝いています! たっしゃかもん

No.236

主人と町に感謝!
健康作りと趣味を楽しんでいます

たて やま ふみ え
立山 文江さん

(昭和10年12月13日生まれ) 満85歳 出来町区在住

問 好きな食べ物

体の調子に合わせて、できるだけバランス良く食べます。基本は野菜を主にして、肉が週に3・4回と魚が週に2・3回くらい食べます。今年の夏は甘酒をよく作りました。甘酒は、「食べる点滴」とも言われて発酵したもので、人にも分けています。

問 好みの男性のタイプは

思いやりがあり、優しい人が好きです。芸能人と言うと、梅沢富美男さんがおもしろくて、とんちが利く人で良いですね。

問 私の趣味

週に3回ほど福祉センターにお風呂に入りに行き、友達と話すのが一番の楽しみです。編み物と手芸も好きです。それと季節の花を作って、両親や親せきの墓に供えて参ります。

問 私の健康法

公民館で太極拳を週に1回しています。朝晩に体温と血圧を測っていますし、毎朝に納豆・卵と味噌汁を食べます。

問 思い出

旅行ですね。昔は年に2・3回友達と札幌雪まつり等に行きました。70歳を過ぎて、お父さん(ご主人の弘幸さん)と富士山に登りました。天候にも恵まれ、1回で山頂まで登れたのは運が良いと言われるそうです。苦勞して山頂に登り着いた時は、パンザイしました。

問 若い世代へ伝えたいこと

人との交流が大切だと思います。朝夕の挨拶をしてほしいです。若い人から声掛けが少ないので、私から声掛けしています。

問 町へのメッセージ

住みよい所で、よその町と比べて充実していると思います。行事では、敬老会等を町主催でされるので感謝しています。



富士山登頂での1枚▶